

自然観察 NOW

NO : 25

野幌森林公園自然情報

発行：2017年11月5日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



オーイみんな！冬支度をしよう！

植物も動物も暦(コヨミ)を感じる能力を持っています

植物も動物も暦を感じる能力を持っています。なかでも、植物は、生育している場所を動けませんから、気温や湿度、昼の長さなど敏感に感じながら冬支度をします。

人間も、野の花や野を渡る風、昼の長さの変化、寒さの深まりを感じながら冬支度をしていました。ほんの少し時代をさかのぼると、タクアン作りのダイコン干しは、秋の風物詩でした。ジャガイモ、ダイコン、ニンジンなどを土に埋めて長い冬に備えました。ところが、人間は食べ物に関しては冬支度の風習を失いつつあるかも知れません。四季を通してそれらの作物は店に行くと購入できます。生活は便利になったが、食べ物についての暦感覚(季節感)が薄れてきているといえるでしょう。

冬芽の冬支度は早い時期から

厳しい冬を生き延び来春へと命をつなぐ冬芽の準備は、早い時期から始まります。アカマツやクロマツは、6月頃すでに冬芽を作っています。その他の木々も早い時期から冬芽を作り始めます。冬支度は周到に進められています。

①そんなに早くから準備をして秋に芽吹かないのはなぜかな(この項、参考文献から引用)

- ・冬芽やタネの休眠と言われる現象には普通2通りあります。
- ・その一つは温度や水分などの外界の条件が成長に適していても、内部の要因によって芽出ししない状態の時です。これを自発休眠(一般に休眠)といいます。この眠りは浅く、芽吹くことがあります。(サクラが狂い咲きしているのを見たことがあるでしょう。)
- ・もう一つは、外界の条件が整わないため芽出しが出来ない状態の時があり、これを他発休眠(冬眠ともいわれる)と区別しています。冬芽は深い眠りです。その深い眠りを破るのは、寒さに遭わせることです。冬芽は、秋までの浅い眠りの休眠、冬の深い眠りの冬眠という順序で進んでいきます。

②芽鱗は冬芽を何から守っているのかな

冬の寒さや乾燥から守っています。なかでも、乾燥から守るが第一の理由です。冬は空気が乾燥しています。トチノキの冬芽の写真を用意しました。芽鱗は粘り気のある樹脂状のものを分泌しています。ナナカマドの冬芽も同じです。これなら冬芽を乾燥から守ることができます。



トチノキの冬芽

間もなく冬だ！葉を落として冬に備えよう

① 葉を、ただ落とすのは勿体ないな

落葉する前に葉の養分が幹の方に移動します。それから葉の付け根に離層ができ、葉が色づき落葉します。ケヤマハンノキは、緑色をしたまま落葉します。根に根粒菌があり空気中の窒素を固定しますから、窒素分に関してはハングリーでないのです。

② 冬の気候は厳しいからな

冬は、夏より風が強いです。葉を落とした方が冬の嵐に耐えられます。

③ 雪は重いからな

右の写真は1月の円山公園です。もしもこの時期、枝に葉が付いていたら、枝は折れてしまうだろうな。

④ 冬はエネルギー収入が無いから省エネ生活をしているんだよ

冬はエネルギー収入はゼロなんだよ。だから、葉を落として省エネ生活をしています。冬はひっそりと過ごしているのさ。



円山公園冬景色

寒さに対しても冬支度をしよう

「寒締めホウレンソウ」は、甘いです。寒さに遭ったホウレンソウは甘みを増すことによって耐寒能力を高めているのです。樹木も夏と冬では耐寒温度が違います。樹木のなかでどのような化学的な変化が行われているのか。筆者は答えられません。分からないのです。しかし、夏に適した体から冬に適した体に変化しているのは確かなことです。

耐寒温度は樹木の種類によって異なります。

オーイみんな！春支度をしよう！

秋なのに春支度を始めた植物があります。ミズバショウの写真です。9月30日に撮影しました。早くも春の芽吹き準備を始めています。春一番に咲く花たちの目覚めは秋なんです。今時期フクジュソウ、カタクリ、エゾエンゴサクなどは、地中に力強く根を張っていることでしょう。花壇の水仙やチューリップも根を張っていることでしょう。



ミズバショウ

観察会案内

- 11月23日（木）西岡水源地自然観察会 10:00～12:30 西岡公園管理事務所集合・解散
- 1月14日（日）円山登山観察会 10:00～12:30 円山八十八カ所登山口集合・解散
- 2月8日（木）冬の森の観察会 10:00～12:30 自然ふれあい交流館集合・解散

参考図書：森林で遊ぼうシリーズ2 もっと知りたい森と木の話＜北海道林業改良普及協会＞
文責：春日 順雄